動物飼育Q＆A

＜Q＞発表に「チャボが子どもへの貢献度が一番」とありましたが，なぜですか？

＜A＞チャボは「突っつくとか凶暴だ」と思っておられる方がありますが，チャボは人が鶏を愛玩用に改良した種類です．昔から人に愛されて飼育されており，姿の良さを競う品評会なども行われていたようです．大きさも手頃で大人しい性格で，優しく扱えば人に良く懐きます．なお，鶏たちの雄は，自分の遺伝子を受け継ぐ子を産んでくれる雌を大事にします．その雌の身を心配して，人に向かって来ることがありますが，安心させるように餌をあげたり世話をすれば，やがて名前を呼ぶと，全速力で走ってきたり，喜んで抱かれたりします．

「優しくすれば，優しさを返してくれるチャボ」を，「ウサギより可愛い」という子たちが多くみらます．

＜Q＞トリインフルエンザが心配です．学校では飼わない方が良いでしょうか？

＜A＞東南アジアなどの人への感染例は，ワクチンなどで症状を顕さない沢山の病鶏の中で生活している人や，その病鳥を食べた人たちです．物理的にそのような鳥の腸内容（糞）を大量に吸い込んだり，口に入れてしまったと考えられています．肉やタマゴは大丈夫ですが，生きた病鳥を調理した際の腸管の処理や，まな板などの処置に問題があったのでしょう．

つまり，日本がそのような状態（病気の鳥が沢山いる中で人が生活し，あるいは，各家庭で生きた鳥を購入して，さばいて食べる習慣）にあるなら鳥に警戒しなくてはなりませんが，それはありません．病鳥からの直接的な人への感染は殆どないのですが，もしもニワトリたちに病気がうつったとしても，小学校ではニワトリが過密に飼われてもおらず，外気が通う環境ですので，養鶏場のように閉鎖鶏舎に人が入って，舞い上がる大量の糞を吸い込むこともありません．

つまり，日本では学校のニワトリたちを危険と考えている学者はいません．考える議題にものせておらず，現在の感染鶏への厳しい処置は，農水省の日本全体の養鶏業を守るための処置で，今回，その監視体制が功を奏して宮崎県や岡山県も早期に対応ができています．

H19年冬，国内で複数箇所で発生しましたので，安全宣言がでるまでニワトリ・チャボを飼育舎外に出さないようにし，飼育舎に入る人は，飼育舎用の長靴に替えたり，あるいは靴底を消毒して，外からウイルスを持ち込まないようにして鳥達を感染から防ぎましょう．また，鳥の体力を落とさないように，普段通りの子どもたちの世話で，防寒の巣箱（ダンボール箱でも良い）と餌，水を与え，糞をためないように掃除をしましょう．毎年11月のはじめには巣箱を入れましょう．

＜Q＞チャボの寿命は

＜A＞採卵用の鶏は，産卵能力が落ちる1歳半ごろに処分されますが，愛玩用のチャボは寿命一杯生きられ，約14～15年でしょう．中には20年近く生きた事例も聞いたことがあります．長く生きれば，それだけ人と交流するためか，とても思慮深くなるのもいますよ．なお12年歳まで卵を産む雌もあります．

＜Q＞軽度知的障害の子が飼育に関わる時の注意

＜A＞その程度によりそれぞれの対応は異なるでしょう．例えば健常児の4歳未満の子が動物を抱くときは，力を入れすぎて動物をつぶしてしまったり，危険を感じた動物が咬む事故が予想されますので，大人の介助のもとに触れ合わせましょう．

4歳からは，大分安心して見ていることができますが，たとえ動物の扱いに慣れたとしても，動物も子どもも相手の気持ちを考えるのは不得意なので，事故がないように，原則として大人が見ている時に，動物を怖がらせないように，子どもの膝に敷いたバスタオルの上に置いてあげましょう．そして子どもの腕を動物に回すようにしてあげて，自分も楽しんで，動物をなぜたり，触ったりして触れあわせてください．子どもが怖がったら強制しないように，機会をみてそっと触らせましょう．

なお，もっと幼い時は，動物にかぶりつくことが見られていますので，子どもに動物を抱かせないで，指導者の膝に動物を抱いて，子どもが手のひらで動物をなぜるように誘いましょう．

飼育する種類は，チャボやモルモットが大きさも，性格の穏和さでもおすすめです．なお，チャボとは間近でにらめっこすると，目を突かれますので，注意してください．